

これを機に情報教育の新しい運動を

ポスト・コロナの新たな情報化社会へ向けての提言

補足

情報理工学系研究科 コンピュータ科学専攻

萩谷 昌己

4. ポスト・コロナに向けて何をすべきか？

(1) 『もとのシステムに戻さない!』

(2) 新システムへの導入

コロナ禍以前において、日本のデジタル化・オンライン化・ペーパーレス化は、大きく後れをとった状況であった。

さらに、海外におけるコロナ禍は我が国より厳しい状況であったことを鑑みると、海外における社会・産業システムの進化がより加速される可能性があることを十分に認識すべきである。

すなわち、我が国は、コロナ禍を好機と捉え、後れていた情報化(=デジタル化・オンライン化・ペーパーレス化)を強力に推進しなければ、急激に国際競争力を失ってしまう可能性が存在するということを十分に認識すべきである。

魂の入っていなかったオンライン化・IT化

悲惨なマイナポータル

形ばかりのオンライン化だった
オンライン化することが目的だった

身近な例：悲惨なLMS

LMS=Learning Management System

かつて、一部の物好きが？教員だけが使っていた

LMSが存在することが目的だった？

魂が入っていないので、

本格的に使われると悲惨なことが起きた

結局、ZoomやGoogle DriveやGoogle Formに頼っている

オンライン化の意味が理解されていなかった

業務の効率化が目的でなかった

旧来の業務をそのまま踏襲したオンライン化

ユーザがオンライン化の意味を理解していなかった

情報システムに関するリテラシーの致命的な欠如

大人の情報リテラシー（竹内郁雄）の必要性

より一般的に、我が国では、

科学技術リテラシーが欠如しているのかもしれない？

どうすればよいのか

人材育成につづく...

4. ポスト・コロナに向けて何をすべきか？

(4) 新しい社会を先導する人材の育成

1. ポスト・コロナ社会を先導するに資する人材育成

2. 初等・中等教育課程における情報教育の改革

特に、学習指導要綱の厳密な順守に縛られたPUSH型(=非対称)の教育を、すべての児童・生徒が公平に享受可能な環境のもとで、自主性と柔軟性・対応性を持ったPULL型(=対称型・対等型)の教育に変革すべきである。

3. 人生100年時代・超スマート社会に向けた情報教育システム

4. 人材の流動性の向上

特に、低所得の人材を高所得の階層に移動可能に。

5. 人材の2極化を、正規分布型化

6. 公平な教育機会(教育機会のユニバーサルサービス化)の提供

7. デジタル・ネットワーク社会基盤の整備が必須

学校のキャンパスだけでは不十分。家庭の接続環境の整備を含む。

8. 戦略的調達を実現する人材の確保と育成

悲惨な情報教育と教育情報化

最終目標はPULL型(=対称型・対等型)の教育

しかし、その前に公平な教育機会が必要

教育機会のユニバーサルサービス化

足を引っ張る地方分権 (文部科学省高谷課長の演説)

やる気のない教育委員会

教員の意欲を潰す学校

すべての児童・生徒が自宅の情報環境を享受すべき

デジタル・ネットワーク社会基盤の整備が必須

ボトムラインの保証 ⇒ 子供の権利!

そのようなことを言うと

貧しい母子家庭はそういう状況ではない、という批判

それとこれとは別の問題

子ども食堂の情報だってネットワークを通して

子供も大人も情報教育

コロナの経験は最高の教科書

魂の入っていないIT化のために10万円がもらえない
在宅勤務は可能であることに多くの人が気づいた
オンライン授業であるレベルの教育ができることがわかった
もちろん数々の問題はあるが、

評価の新しい形も実地に試されつつある
しかしいまだに我慢してしまう真面目な人々

情報基盤センターの書類に印鑑を押して持参する自分
一人一人がIT化の努力を継続すべき (ITカイゼン?)
それを主張できる根拠が得られた ⇒ 義務に!

これを機に情報教育の新しい運動を起こすべき

特に大人の教育

上から目線ではなく、小さな実践に裏打ちされた
辻説法的な啓蒙